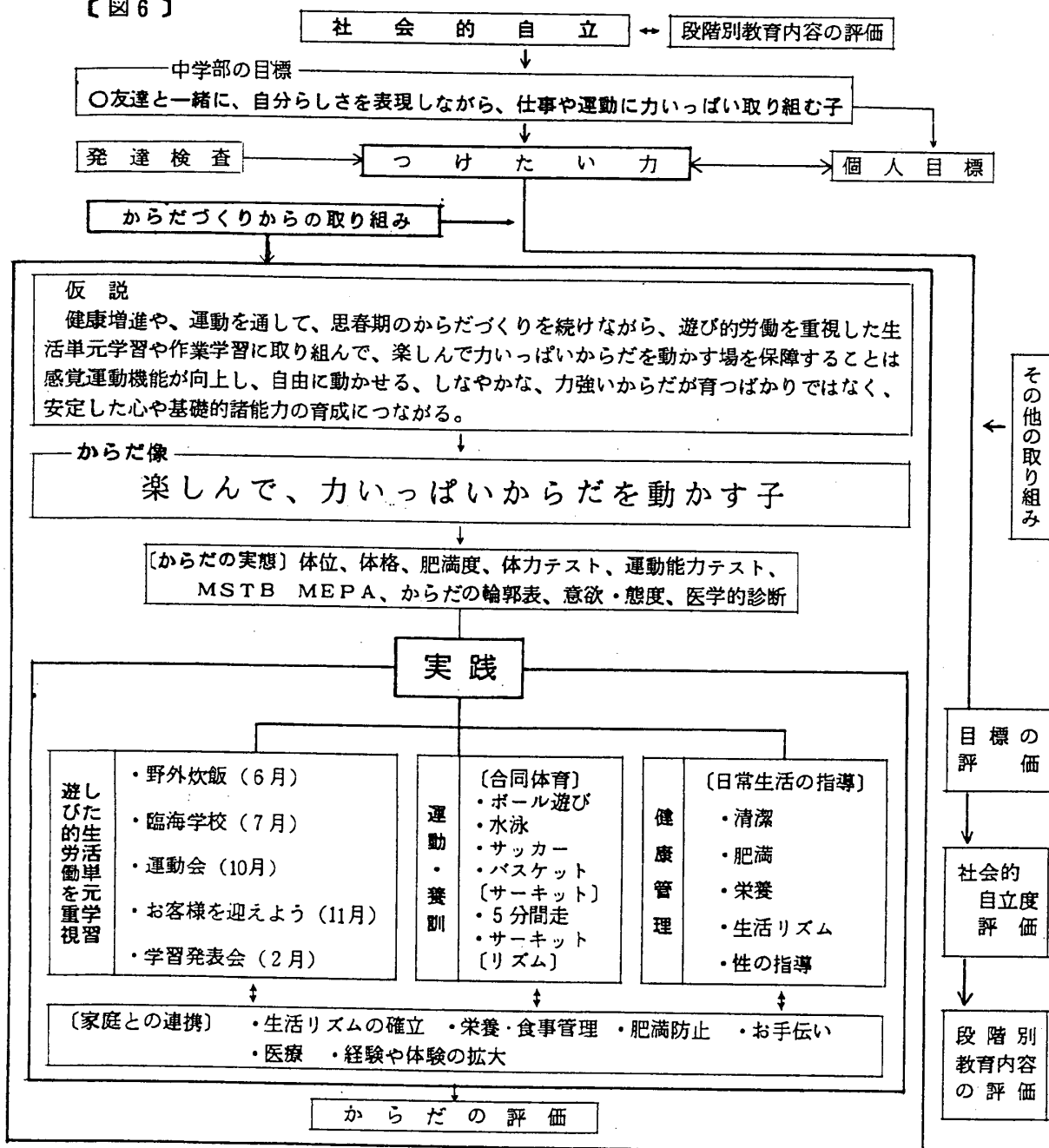


## 【2】 研究の構想図

【図6】



## 【3】 研究の経過と本年度の取り組みの方針

### (1) 63年度（1年次）の取り組み

58年度から実践されていた「朝の活動・体力づくり」を引き継ぐ形で、上に示す研究の構想図の中の「運動・養訓」「健康増進」に重点的に取り組み、研究の基礎固めをした。

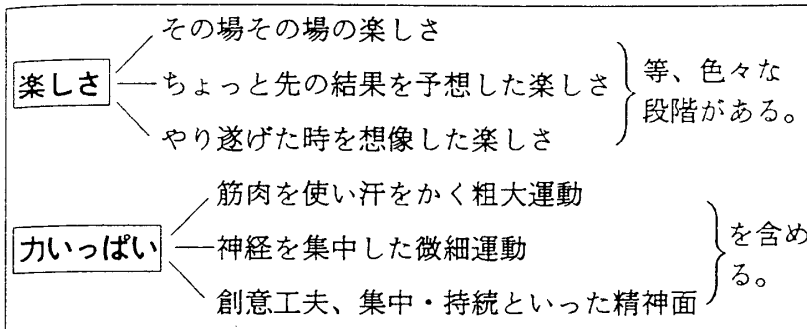
### (2) 昨年度（2年次）の取り組み

#### ① 研究仮説、研究構想の確立と研究構想図の作成

② からだからの学部テーマ「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」の設定

「まだまだ伸びざかりの思春期のからだを楽しんで、思いっきり、熱中して動かす（精神面も含めて）という気持を込めて、上記のからだ像（学部テーマ）を設定した。

また、テーマ設定の経過の中で、次の事を共通理解した。



③ からだづくりをめざした教育課程の編成と研究単元の実践

健康増進、運動・養訓への取り組みに加えて、生活単元学習にからだづくりの場を広げ、それを教育課程の中心に据えた。年間に5つの「遊び的労働を重視した単元」を選定、実践した。その実践を通して、一人ひとりの「楽しんで力いっぱい…」の具体的姿やそれを引き出す要因を探り、段階を追って配列し、指導の手がかりにした。

④ からだづくりでめざしている具体的なからだを明確にし、評価のための試案作成に着手

我々のめざす、社会的自立の基盤となるからだとは、「意欲、やる気のあるからだ」「自由に使いこなせるからだ」「がんばれるからだ」と共通理解し、それを評価するメジャーとして「からだの輪郭表」「意欲的な姿の段階表」等の試案を作成した。

(3) 本年度（3年次）の取り組み

昨年度は、からだづくりに視点を当てた教育課程の概要ができあがり、その実践を通して、子どもたちのいきいきした姿など一応の成果を見ることができた。しかし、いくつかの課題も残された。中でも「どの子にも（特に重い子どもに）楽しんで力いっぱい取り組める授業が保障できたかどうか」という授業展開上の工夫については反省課題として残された。この事については、鳥大助教授渡部昭男先生によって「発達・年齢・障害に応じた授業づくりを」と、研究発表大会の講演の中でも本年度の課題として提起された。また、3年目を迎え、リズム、サーキットの見直しの時機であることも学部で確認された。そこで本年度は、次の二点に研究の視点を当てた。

① 研究の構想や単元等、昨年ものを踏襲しながら

- ・意欲的に取り組み楽しんで力いっぱい活動できる — 授業づくりの実践
- ・集団の中でのより良い個への対応の仕方をさぐる (生活単元学習と体育を中心に)

② 中学部の生徒の実態に応じたリズム及びサーキットの内容の見直しと組み立ての改善

【4】 生徒の実態

一部新しいテストを導入したが、結果を比較する目的もあり、昨年と同じテストを実施した。本